

収穫感謝献金のお礼と報告

松山聖アンデレ教会 エリザベート 井谷暢子



メンテナンスは欠かせず、10年に1度は大規模修繕が必要です。予算を立て毎月の営繕献金で準備はしていますが、今回は予定より早く壁面のひびわれ対応、窓枠の庇取り付け、屋根の塗り替え等が必要となりました。

約90万円の費用に対して、教会外から2割の協力をお願いし、今回の収穫感謝献金と伝道区からの応援を受け、無事工事を終えることができました。

皆さまの働きの果実である今年の収穫感謝献金のうち10万円は松山聖アンデレ教会の改修工事のために用いさせて頂きました。有難うございました。

かつて信徒と有志の手によって積み上げられた赤レンガの礼拝堂は、松山市内に現存する唯一のレンガ作りの建物で、西に松山城、対面に松山気象台を構える味わい深い佇まいです。ただ定期的なメ



2022年度は、コロナ禍により手が回らなかった木々の伐採や移植を行い、境内地の整備も行いました。草引きや清掃に加え、窓枠のペンキ塗りなど自分たちでできることは取り組みたいと夢が広がります。

牧会資金援助金を必要とする小さな群れですが、小さいながらもできる少しずつの積み重ね、小さいからこそ受け取れる恵みに大きな感謝を覚え、これからも地域に開かれた教会を目指したいと思えます。感謝のうちに。

信徒・関係者対象 宣教アンケート の報告

宣教委員 東 弘彦

ここ数十年、各教会と教区が直面して来た問題として、信徒が増えない、むしろ減っていくこと、そこから派生してくる献金の減少と、その

結果としての活動の停滞があります。これらのことはずいぶん前から取り上げられ、対応するための努力がされてきたはずですが、現状を顧みると、努力は実っていないし、もつと言え、方向が間違っていた可能性があります。

もう少し突っ込むと、需要と供給の間(この言葉には反論があるところかと思いますが)つまり教会を求めると教会の間にズレや食い違いがあるのではないかということ、仮に教会が提供していることと、教会に求められることとの間にミスマッチがあり、これに気が付いていないとすると、溝は埋まらず、状況は永遠に変わりません。ズレは教会の側から正すしかないので、

委員会では、まずこれらを検証するため教区内でアンケートを取ることにしました。

本来は「教会に来ていないけれど行きたいと思っている人」の意見を聞くのが最善ですが、現実にはできないこと

ですので、次善の策として、信徒の意見を聞き、その周辺のことを推し測ることにしました。実施したアンケートの具体的な内容と結果の概要は教区会での報告のとおりです。また、選取肢以外の自由記述で寄せられた意見は非常に多岐にわたるもので、委員会としては思いがけない収穫を得ることができました。

今、委員会ではアンケートで得られた内容を基に、教区と教会に対して、これからのことについて提言する作業にかかっています。

教会はイエス様のされたこと、言われたことに倣って、良いと思われることをやっているはずですが、残念ながら今の日本ではそれが「広く受け入れられている」とは言えない状況です。

方法の問題なのか、中身が原因なのか、あるいは双方なのか、いずれにせよ必要な場合には自ら変わってゆく勇氣が必要だろうと思っています。